



第630号

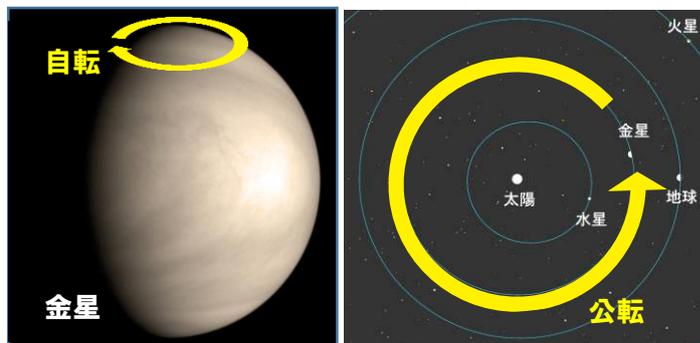
ジオスペース館だより

★「金星」～明るく輝く一番星～

【太陽系の惑星 その4】

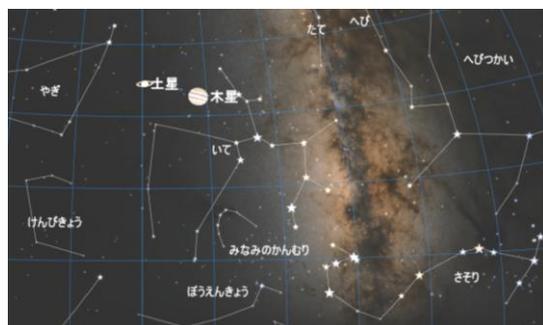
金星は太陽に2番目に近い軌道を回る惑星で、地球のすぐ内側を回っています。明るく輝くその美しさに、古代メソポタミアの時代から「美の女神」と呼ばれ、現在の英語名「ビーナス」もローマ神話の美の女神の名前です。日本では古くから「明けの明星」「宵の明星」と呼ばれ、親しまれています。金星が明るく輝くのは、金星全体をおおっている分厚い雲が、太陽の光を反射しているためです。金星は大きさも重さも地球とほぼ同じで、地球の双子星ともいわれていますが、その世界は地球とは大違いです。金星の大気はほとんどが二酸化炭素で、地表の気圧は90気圧もあり、温度は温室効果で、昼でも夜でも460℃という高温です。金星の分厚い雲は、地球の雲のように水できているのではなく、濃硫酸できているのであり、硫酸の雨を降らせませんが、高温のため地表に届く前に蒸発してしまいます。金星の地表は火山によって造られた地形が多く、2つの大きな大陸の他はなだらかな平原で、液体の海や湖はありません。また、今から5億年ほど前に大規模な火山活動が起き、噴出した溶岩が金星の表面全体をおおってしまったと考えられています。金星にはまだまだ謎が多く、現在、日本の金星探査機「あかつき」が金星を周回しながら観測中で、4月には金星大気の高速度運動の謎が解けたことがニュースになりました。これからどんな発見があるか楽しみです。

地球のすぐ内側を回っています。明るく輝くその美しさと呼ばれ、現在の英語名「ビーナス」もローマ神話の



★木星と土星が見ごろです！

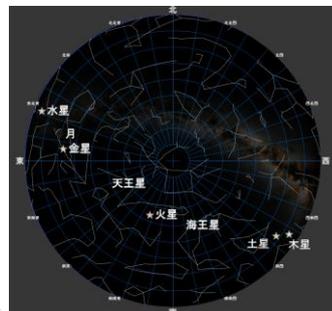
夜が更けると、南の空に木星と土星が並んで輝いているのを見ることができます。14日には木星が「衝」、21日には土星が「衝」となります。「衝」とは、太陽・地球・その惑星が一直線並び時のことで、地球との距離が近くなるので、とても明るく見えます。しかも、日が沈む頃に東から昇り、日が昇る頃に西に沈むので、一晩中見ることができます。



7月下旬の土星と木星の位置 土星と木星は200倍で描いています

★惑星たちが勢ぞろい

7月下旬、明け方の空に全ての惑星が勢ぞろいします。南西の空の地平線近くに木星と土星、そして、海王星、火星、天王星、金星と並び、東北東の地平線近くには水星が、19日までは月も加わります。天王星と海王星は肉眼では確認できないので、双眼鏡や望遠鏡で観察するとよいでしょう。



星図はステラナビゲーター11を使用して作成

★7月のプラネタリウムのご案内★

平日	15:00～	ノーマン・ザ・スノーマン ～流れ星のふる夜に～ (字幕付)
土日祝・21日以降の平日	10:30～	プラネタリウムちびまる子ちゃん それでも地球は回っている (字幕付)
	13:30～	新型コロナ対策のため、当面の間13:30の投影は行いません
	15:00～	ノーマン・ザ・スノーマン ～流れ星のふる夜に～ (字幕付)

★プラネタリウムのお休み 7/15(水)、20(月)、27(月)～29(水)

★新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



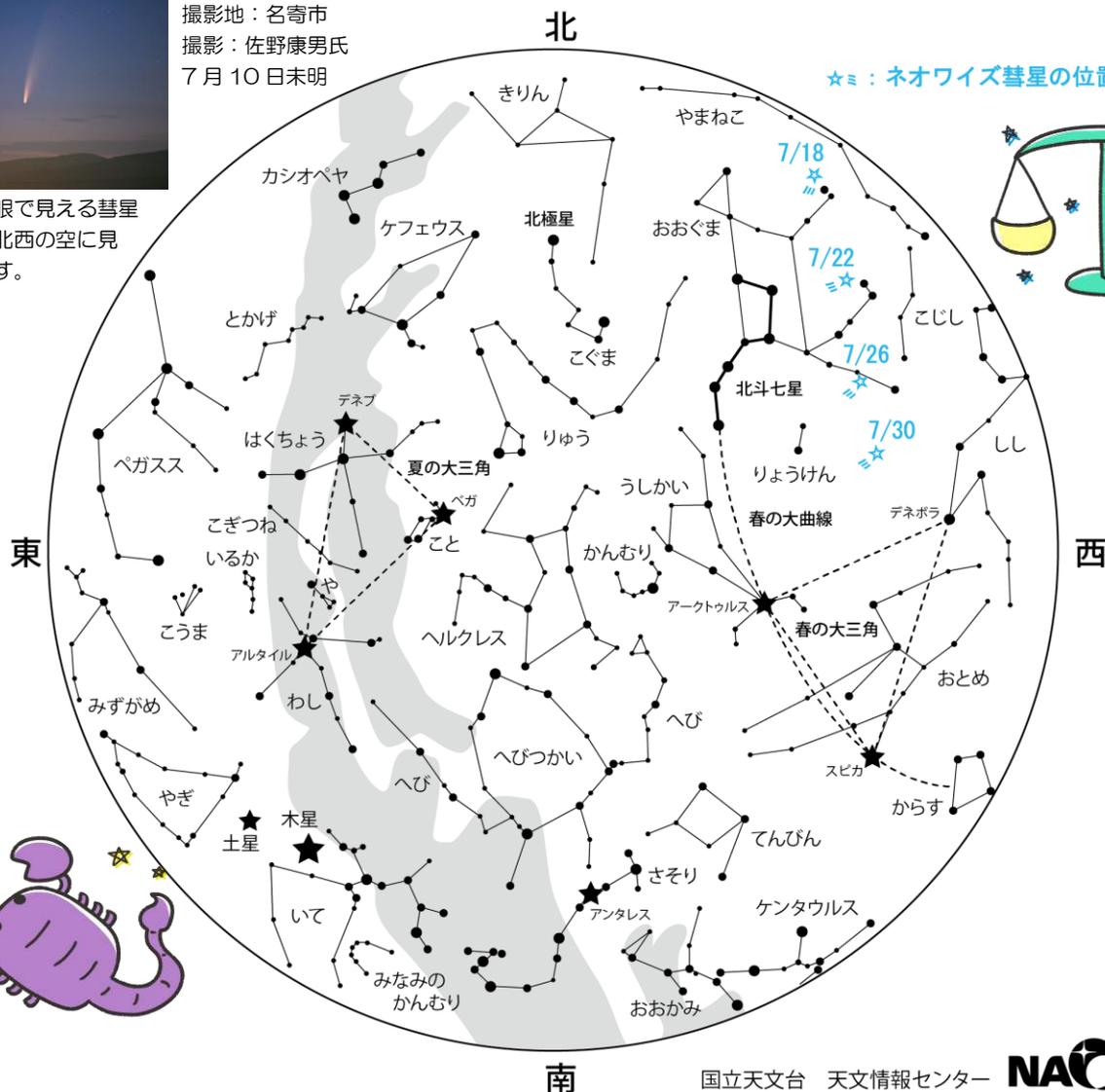
7月下旬午後9時頃の星空

ネオワイズ彗星(C/2020 F3)



徐々に肉眼で見える彗星が夕方、北西の空に見えています。

撮影地：名寄市
撮影：佐野康男氏
7月10日未明



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 7月下旬の主な天文現象

16日(木) 冥王星が衝	23日(木) 水星が西方最大離角
17日(金) 月と金星が並ぶ(未明)	27日(月) 上弦
21日(火) ● 新月、土星が衝	30日(木) みずがめ座δ南・北流星群、やぎ座流星群が極大
22日(水) 大暑	

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ7/16~31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 7月16日(木) [見やすさ◎]	19:29 南南西	~	19:35 東北東
◇ 7月17日(金) [見やすさ◎]	3:37 北西	~	3:44 南東
◇ 7月18日(土) [見やすさ◎]	2:49 北西	~	2:56 南東
◇ 7月18日(土) [見やすさ◎]	19:29 西南西	~	19:36 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。